



協会だより

Japan Tourism Facilities Association

No.148



10月

発行／公益社団法人国際観光施設協会

総務委員会

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋

2-8-5 多幸ビル九段2階

TEL03-3263-4844

FAX03-3263-4845

E-mail : kankou01@syd.odn.ne.jp

URL : <http://www.kankou-fa.jp>

2024年10月1日

奥能登の「里山・里海」

副会長 大内 政男

始めに本年1月の能登半島地震、更にこの9月の集中豪雨により亡くなられた方々へ弔意を表し、被災された方々への心よりのお見舞いを申し上げます。

国際観光施設協会では能登半島を襲った巨大地震による災害からの復興を支援すべく「能登半島復興支援委員会」を発足させ、訪問の目途が立った8月22日から24日まで、能登の被災地を訪れました。災害の状況や現況の報告、現地で伺ったお話などは別途報告の機会があると思いますが、その訪問の一月後には観測史上に無いほどの集中豪雨が被災地を襲い、ようやく復興の緒に就こうとした輪島市や珠洲市を襲いました。報道で知りえた限りでも、私たちが訪れた被災地が重ねて甚大な災害に見舞われ、為す術がない状況にあるという事が伺えます。地震国「日本」とグローバルな異常気象という事だけでは済まされない現実がここにあります。

一方で今回の訪問で私の印象に強く残った奥能登の自然の美しさ、その自然と伝統的な作りの民家が創り出す里山里海の美しさについても、敢えて書かせていただきます。なぜ今？と疑問に思われる方もいらっしゃると思いますが、日本の各地には美しい里山里海があり、同様に大きな災害に見舞われる可能性があり、又、放置しておくと思われがちで貴重な美しさと考えたからです。

奥能登は日本では13か所ある国連の食糧農業機関が指定する「世界農業遺産」の地域に指定されてい

ます。人の手の入った森林や田畑、美しい海と海岸線がいたるところで見られ、黒光りする地産の能登瓦と下見板張の民家が創り出す景観は、奥能登を観光地として特長づける価値ある景観と思います。訪問時にはこうした民家の多くが倒壊し、森林のいたるところで山が崩れ地肌が剥き出しの状態になり、被害の大きさを知らされました。この度の豪雨で更に状況は悪化していると思います。以前の景観を取り戻すには相当の努力と時間、相応の経済的な支えが必要になります。それでも何とかこの美しい景観を取り戻したいというのが本音です。

日本の美しい里山里海は貴重な観光資産であり、これからも維持発展させていくべきものと思います。そしてそのどこでも大規模な災害が起こり得る、しかもたいていは過疎化の進む地域であることも共通しています。奥能登のような里山里海の自然循環システムを実体として感じとれる景観の維持再生には、携わる地元の方々だけの努力では限界があります。過疎化の進む地域では尚更です。一方で限界のある経済的条件の中でどれだけの資本と労力をつぎ込み、どのような形で復興を支えていくのか、そのことを確認し方法論を探し出す作業はまだ暗中模索の段階です。災害は待ったなしにやってきます。これからの日本には避けて通れない問題であり、復興に向け早急に国民的なコンセンサスが必要とされています。

技術委員会の活動状況とこれからの予定

技術委員会 委員長 野出木 貴夫

これまでにない暑さが続いた夏でしたが、各技術委員会の活動はこの暑さに負けることなく活発に推進されています。各委員会・分科会に新規委員の参加もあり、新たな活動も展開しています。昨年の協会創立70周年から次の10年に向けて、乞うご期待です。

【ホテル都市分科会】「木づかい活動」推進と「新UD客室研究」を主軸に活動を続けています。「木づかい活動」は、今年度は講師を招いてのセミナーと木づかい事例3件の見学会を開催いたします。一方、新UD客室研究は、フェーズフリー研究に少し舵を切り、「フェーズフリーなベッドパッド」の開発に挑戦中です。日常の快適なベッドパッドが、非常時には布担架や寝袋にもなるアイデアです。来年のホテル展で試作品の展示を行う予定です。

【観光交流空間のまちづくり研究会】昨年に引き続き観光庁にヒアリングを行いながら、地域のまちづくりや観光への取組について事例研究を進め、協会を取り組めることを検討しています。今年度は日本各地で課題となっている「廃校」「廃屋・空き家」の問題と離島振興をキーワードに佐渡の観光、まちづくりに焦点をあてて研究を開始しています。今後事例研究に続いて、関係者の講演、現地視察を行う予定をしています。

【旅館観光地分科会】テクノロジー×宿泊/観光という観点で「スマートシティ研究会」を立ち上げ、「LINKED CITY」と名付けて活動を行っています。自治体、観光関連団体、地域 DMO との協業を模索し、昨年は沖縄 IT イノベーション戦略センターと協定を結びました。今年度は「木づかい活動」と連携し、山形県朝日町・西川町、北海道当麻町・愛別町と林泊、農泊文脈での協業にむけ活動しています。今後も活動の場を全国に展開し、「人材 DX」「観光 DX」「農泊 DX」「都市 DX」をキーワードにプロジェクトを進めていきます。

【エコ・小委員会】環境面に配慮した持続可能な観光へ向けて宿泊施設もカーボンニュートラルへの取り組みが求められています。脱炭素経営には優位性の構築、水光熱費の節減、優遇税制・低利融資、社員のモチベーションアップなどいくつかのメリットがありますが、遅々として進みません。エコ・小委員会は CO2 排出量可視化ツールの開発、水光熱費の削減、地域でのエネルギーミックスなど具体的な道筋を示し、脱炭素経営をバックアップすることを考えています。

【インテリア分科会】コンセプト「デザイン温故知新」を継続して進めています。日本の伝統的技術の現場調査を行い、私たち技術者の視点で考え伝統的技術の担い手と設計者を結ぶ道筋・窓口をつくるなどの方法でそれらを次世代につなげていく考えです。昨年度からは、実際に伝統的技術を現在まで継承し技術産業につなげている会社（協会員）を訪ねて、時代と社会の要求の変化にどのように対応させてきたのかを学ぶ試みも行っています。又、調査の範囲を東京近郊から日本各地に広げています。今年もライブ配信を行う予定です。

【耐震研究会】ホテル・旅館の耐震改修の促進について研究を進めています。耐震化の助成金制度の調査のほか、SDGs への取り組み、地震災害後の迅速な復旧を目的とした BCP(事業継続性計画)の作成の推進のほか、今年度からはドローンを用いた建物調査の研究も行っており、実績は2月のホテルズ展にて展示いたします。

建築部会の活動状況とこれからの予定

建築部会長 崎山 茂

本年は元日の能登半島地震の衝撃に始まり、海岸線の地形が変わる現実にも直面しました。東日本の津波と熊本での二重の地震に続き、地震があるごとに災害の新たな形を突き付けられるようです。

春は桜の開花が大幅に遅れ、お花見クルーズは悪天候で中止となった後、夏は異常な暑さに見舞われました。そんな中でもインバウンドの客足は好調のようで、魅力的な観光の対象を増やすと共に災害時にも役立つ水運を見直す活動として水辺観光の研究は続けてまいります。東日本震災で被災した港町にスーパーヨットの寄港地をつくる試みなど多くの方からの情報をもとに活動の幅を少しずつでも広げていきたいと考えています。

設備部会の活動状況とこれからの予定

設備部会長 藤野 健治

設備部会では、これまでに計3回の幹事会を開催し、「セミナー・見学会を通しての情報提供」と「設備部会全体交流会の開催」について検討してきました。7月27日には、省エネルギー技術や脱炭素の取り組みが、国内外で高く評価され多くの賞（米国暖房冷凍空調学会 (ASHRAE)「2023 ASHRAE Technology

Award」の新築オフィスビル部門世界最優秀賞等）を受賞した「新菱神城ビル」の見学会を開催し、30名を超える方に参加いただくとともに、終了後には懇親会を開催し会員間の交流を図りました。

また、設備部会全体交流会については、11月5日に開催する予定で実現に向けた打合せを進めています。活動状況につきましては、今後も掲載等を利用して皆様に情報発信して行きたいと思っております。

インテリア部会の活動状況とこれからの予定

インテリア部会長 寺本 昌志

令和6年度前半のインテリア部会各グループの活動は宿泊施設見学グループが5月29日に「メルキュール東京日比谷」の見学会を企画し、60名を超える参加者がありました。見学会では、ホテル側より計画を進めるにあたり考えられたブランド戦略や営業方針についてお話を伺い知見を広めました。また新情報発信グループでは7月10日に『ホテルとは違うクルーズ客船のオペレーションとインテリアデザインについて』をテーマに、郵船クルーズ/ホテル部の小山様から保有されている「飛鳥Ⅱ」の客船運営についてお話を伺い、また現在建造中の「飛鳥Ⅲ」の事も含めた今後の営業戦略についてもお話し頂きました。参加者はこちらも60名を超え、盛会に終わり良い交

流の場を持つことができました。本年度後半の活動予定について、この二つのグループに加え、セミナーグループ、注目施設見学グループでも交流会開催に向けて、現在、企画構想中です。

地震をはじめ猛暑、大雨、台風と自然災害による被害が心配される日々が続きますが、開催にあつては、コロナ対策も含め、会員の皆様の安全を第一に考え、交流の場を多く持てるよう企画を立てて参りたいと思っております。今後も会員の皆様の積極的な参加を宜しくお願い致します。

「ホテルとは違う『客船』のオペレーションとインテリアデザイン、飛鳥 III について」 の研究会 報告

インテリア部会新情報発信グループ 岩井 秀行

7月10日、郵船クルーズの小山勝利氏を講師にお迎えし、「客船」の各国入港時の厳しい検査実態や家具の特殊仕様などについてお話しいただきました。

また、飛鳥 II が座ればフルコースが出てくる Always with you のスタイルであるのに対して飛鳥 III は 6 つのレストランを毎日選べるなど自由度を高くした Always for you というスタイルで、今後は特色の異なる 2 隻体制で運用していくとのことです。



国際ホテル・レストラン・ショーの お知らせ

ホテルズ実行委員会 委員長 末森 憲義

第53回ホテル・レストランショーは、令和7年2月4日(火)～2月7日(金)、東京ビッグサイト東展示場棟にて開催されます。爆発的にインバウンド需要が高まる中、当協会も主催者団体の一つとして協会ブース出展を行い、ホスピタリティデザインセミナーを開催します。

令和6年1月1日に発生した能登半島地震は、死者240人以上、2万8千棟を超える家屋の全半壊、4メートルの地盤隆起と1メートルを超える地盤のズレなど、甚大な被害をもたらしました。当協会も被災地を視察、復興支援のために展示ブースの一部に能登上布など能登の伝統工芸を取り入れ紹介するとともに、観光地としての能登半島の素晴らしさ、復興の状況やこれから展望を伝えるセミナーを企画しています。

協会ブースは「ホスピタリティのくに 日本を伝える」のテーマを継続し、展示ごとにモニターを用意して伝わりやすさを向上させる計画です。既に会員の皆様には、お手元に「協会ブースへの参加申し込みのお願い」(参加申込書)が届いていると思います。

参加形式は例年通り、①テーマ展示参加/②QRコード付ポスター参加/③CSV社名参加の3種類です。全会員企業の参加を目指す CSV 活動の主旨をご理解の上、必ず3つの何れかにお申込みいただきますようどうぞ宜しくお願いいたします。

☆新入会員紹介☆

[正会員/製造業・販売業] 神保電器株式会社
(代表者) 代表取締役 (担当者) 建築営業部 部長
村上 浩一 島田 和正
〒298-0203
千葉県夷隅郡大多喜町森宮 438 番地 1
TEL0470-82-4121 FAX0470-82-2085
営業内容: 電気機械器具の製造及び販売

[賛助会員] 株式会社オリーブベイホテル
(代表者) 総支配人 (担当者) 企画部 部長
ケネス・ミツツネ 福田 由美子
〒857-2427
長崎県西海市大島町 1577-8
TEL0595-34-5517 FAX0595-34-5519
営業内容: ホテル

[正会員/製造業・販売業] Arper Japan 株式会社
(代表者・担当者) A & D マネージャー
水田 州一
〒107-0061
港区北青山 2-7-22 H・T・神宮外苑ビル 8F
TEL 03-5775-0008 FAX 03-5775-0009
営業内容: 家具の輸入・製造・販売

[正会員/個人] 水野 耕一

第118回国際観光施設協会ゴルフの予告

国際観光施設協会の春のゴルフコンペを
下記のとおり開催致します。

日時: 令和6年11月7日(木)
コース: 狭山ゴルフ・クラブ
プレイ費: 約20,010円
(キャディ付、食事別途) 各自精算
会費: 5,000円(パーティー費含む)

コンペ終了後は表彰式と懇親会、賞品も多数用意しております。

会員の皆様の親睦の場として、お誘いあわせのうえ、多くの参加をお待ちしております。

♥編集後記♥

当協会は、11月12日をもちまして創立71周年を迎えます。今月号の主な記事内容は、新しい年度に向けた各委員会、部会のこれまでの活動内容やこれからの活動計画が解りやすく示されています。これまでの実績を参考にしつつ、新しい事業にむけて全員で取り組んでまいりたいと存じます。

Y. K